東三河農林水産事務所田原農業改良普及課 TEL0531･22･0381

作物

斑点米カメムシ、ニカメイガ ごま葉枯病について

辻　浩孝

イネカメムシは、出穂期から籾の養分を吸うため被害が大きくなります。８月下旬からはミナミアオカメムシの発生もみられ、出穂の遅い作型では斑点米が多発生して減収することもあります。その他にも、昨年度に田原市内でよくみられた病害虫を紹介しますので、心当たりのある場合は薬剤防除を検討しましょう。

１.イネカメムシの生態（写真１.２）

イネカメムシは他のカメムシとは違ってイネを好みます。冬越しは林の落葉の中など暖かく湿度のある所で行い、イネの出穂にあわせて直接水田に飛来します。籾の基部に針を刺して養分を吸うため、多発田では実が入らず不稔（青立ち）となります。またイネの出穂直前から水田で確認されることもあり、畦草のない水田でも発生がみられます。

水田で交尾・産卵した後に幼虫が発生し、イネの籾を吸汁し続けます。乳熟期以降に被害があると斑点米となります。

イネカメムシは出穂が早い水田に集中して飛来する傾向があります。反対に周囲より出穂が遅い水田でも注意が必要です。

２.イネカメムシの防除

イネカメムシの防除は、穂が５割みえた時期（出穂期）が効果的で、減収を防ぎます。７～10日後に追加の防除を行い、今度は斑点米の発生を防ぎましょう。走り穂の時期でも、多発している場合はすぐに防除を行います。

イネカメムシは体が大きいので、液剤で防除しましょう。

出穂が遅い水田などでイネカメムシがみられない時は、従来どおりの穂揃い期に液剤防除を行います。

３.ミナミアオカメムシ（写真３.４）

出穂の遅いイネで８月下旬の傾穂期に、ミナミアオカメムシの成虫と幼虫が確認されました。このカメムシも体が大きいため、イネへの被害が大きくなります。イネカメムシに準じて、液剤の防除が効果的です。

４.ニカメイガ（ニカメイチュウ）

幼虫がイネの茎の内部を食害する害虫で、芯枯れや白穂となり、多発したときは白く株枯れする症状となります。ニカメイチュウは収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬します。

昨年度に多発した水田で育苗箱防除を行わなかった場合は、出穂前の防除を行いましょう。また、収穫後は早めに刈り株をすき込み、ほ場周辺の除草を行いましょう。

５.ごま葉枯病（写真５）

出穂後の水田が赤くなり、近くでみると葉に褐色の丸い病斑が多数みられます。この病斑は縁が黒褐色、中央が灰白色の楕円形で、症状が進むと穂まで枯れていきます。

ごま葉枯病は、鉄不足やケイ酸不足の水田、砂質田または還元田などの肥料切れしやすく根傷みした水田でよくみられます。病原菌は被害のあったワラで越冬するので、昨年度に多発した所は本田防除を検討しましょう。

基本的な対策は冬期の土づくりで、含鉄資材やケイ酸質資材などを施用します。

農薬は有効期限内の農薬をラベルの表示事項を確認して適正使用するとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めてください。



▲写真１　イネカメムシ成虫



▲写真２　イネカメムシ幼虫



▲写真３　ミナミアオカメムシ成虫



▲写真４　ミナミアオカメムシ幼虫



▲写真５　ごま葉枯病